

問い続けていく歩み

相馬 豊

私たちは常に何かを頼りとして生きています。まず、自分自身を頼りにしています。そして仕事に従事している時は、仕事を頼りにしています。そして家族、友人を頼りにする。あるいは経済的なお金というものを頼りにする。しかし、この五つはみんな失っていくものです。仕事に従事していたとしても、定年退職を迎えれば、一線から身を引かなければならない。いただいた退職金を基にして、家族とおいしいものを食べに行こう、旅行に行こうと色々な形で使えば退職金もなくなっていくます。友人を頼りにしても、その友人が病気で入院し、自分より早く亡くなっていくかもしれません。いつまでも家族と一緒にいたいと願ったとしても、自然災害や事件・事故に巻き込まれて、家族の一員が亡くなっていくかもしれません。そして最後に自分が残ったとしても、自分が自分を持て余す。そして、この自分も老いていのちを終えていかなければなりません。

蓮如上人が次のような御文を書かれています。

それおもんみれば、人間は電光朝露
のゆめまぼろしのあいだのたのしみぞ
かし。

（「御文」第一帖第十一通

『真宗聖典』九三三頁）

私たちは、おぎやーとうぶ声をあげて、この年齢まで生きています。何とか無事にやり過ごしてきただけでしよう。この先、どうなるかは誰もわかりません。わかっているのは、必ず亡くなっていくということです。わずか百年足らずの年月、私たちは何をしてきたでしようか。

私たちには自負心があります。これもしてきた、あれもしてきたという自分の価値観や経験値で人を分別し、傷つけたりつけられたり、排除し排除されたりします。そして、私を認めてほしい、こんな辛い思いをしている私を慰めてほしいと願います。どこまでも、自分の都合、思いで生きてきたのが、帰敬式を受けるまでの私ではなかったでしようか。

帰敬式を受けたということは、出発点に立ったということです。これが目標で

はありません。通過点です。大事なのは今日から、この瞬間からどう歩むかです。

私は私の人生をどう歩んでいくのか。そこに責任があるのです。

今まで世間の価値観や自分の経験値で批評して生きてきたけれども、今度は、人間のありよう、社会のありようを、教えを聞くものとしての眼で見えていく。その時、大事なことは何でしようか。

今、私たちの正面にはご本尊があります。ご本尊を前にした時、私たちは合掌の姿勢をとります。そこには、自分の都合や思いが入らないということです。手をあわせた人たちが一つの世界を願い続けるということです。合掌をといってしまうたら、それぞれの個人の世界、損得、勝ち負けという世界に戻ります。そして、自分や他者を傷つけ、傷つけあう。そういう世界に埋没する私たちが、「そうではないよ」というご本尊からの願いにハツとする。

あらためて手をあわせた時、静かに聞こえてくる声があるのです。

願以此功德 平等施一切

同發菩提心 往生安樂國

『真宗聖典 第二版 一五八頁』

平等施一切 同發菩提心とは、道を求め
歩んでいこうという意味です。

『トムソーヤの冒険』の著者マーク・
トウェインは、人生には大切な日が二日
あると教えてくれました。一つ目が「誕
生日」です。今日皆さんは、真宗門徒と
して歩みだす誕生日を迎えました。生前
の誕生日と同時に、今度は自らが真宗門
徒として生きる誕生日を迎えたのです。
誕生には大きな意味があります。人と生
まれたということです。

そして、マーク・トウェインはこう言
います。「もう一つは、なぜ私が生まれた
のかがわかった日」。これが人生の大事な
二つ目の日だといいます。「今日まで生き
続けてきたけれど、私が人間として生ま
れてきたことがわかりました」「こういう
お役目をいただきました」「こういう意味
がありました」と、なぜ自分が生まれて
きたかがわかった日はあったでしょう
か。

そのことをたずねていくのです。わか
らないからわからないままにするのでは
なく、わからないからそれをたずねてい

く。それが法名の名告りの姿勢だと思い
ます。私たちは生涯、その姿勢を歩み続
けます。

答えが出ない旅かもしれません。しか
し、大事なことは問い続けていく歩み。
そのことが大きな意味をもつのではない
でしょうか。その出発点に今日皆さんが
立たれた。私にとってはうれしいことで
す。一緒に悩み、一緒に聞いてくれる友
ができた。一人ではないのだな。一緒に
同じ志を持ち、「ああでもない、こうでも
ない」と考え、もがきながら、うろたえ
ながら歩んでいく友ができた。これは私
にとって最高のプレゼントです。

自分がなぜ生まれてきたのかをたずね
続ける。私たちには、生活の場を通して
そのことを伝えるという役割、使命があ
るのです。いただいた責任を果たしてい
くお一人お一人の姿が、次の世代に伝わ
っていくことでしょう。これからの道の
り、どうか大切に歩んでください。

以上

そうま
相馬 豊

一九五七年生まれ。金沢教区第四上
組道因寺住職。修練道場長。